

水野彌一氏によるフラッグフットボール教室（平成26年6月28日）



平成25年6月28日（土）、昨年度に引き続き、関西学生アメリカンフットボール連盟「京都プロジェクト」との共催事業として、宝が池公園球技場において、水野彌一氏によるフラッグフットボール教室を開催しました。

参加した小学1年生から6年生までの62名の子どもたちは、最初に4チームに分かれて京都プロジェクトの大学生たちと一緒に、楕円形のアメリカンフットボールの投げ方や受けとめ方を練習しました。次にボールを持って走る練習では、腰に付けたフラッグを取られないよう右に左に相手を避ける動きを覚えます。その他、ブロッキングやディフェンスといった動きを練習した後は、いよいよ試合形式のミニゲームです。

「ハドル！」の掛け声とともに、子どもたちが一斉に集合し、オフェンス（攻撃）の前にフラッグフットボールの特徴である作戦を話し合います。そして作戦が決まるとすぐに実践。相手をかかわしたつもりでもあっさりフラッグを取られ、くやしい表情で肩を落とすこともあります。作戦どおりチーム5人の動きが決まり、見事タッチダウンできた時には、子どもたちだけでなく、周囲のスタッフからも拍手や喝采が沸き起こり、成功の喜びを皆で分かち合う一体感に包まれました。

水野氏は、「まずは練習して上手になること。上手になれば、そのスポーツがもっともっと面白くなるし好きになる。だからうまくなりなさい。そして、自分だけがいいというのはダメ。フラッグフットもアメフトもみんなで作るスポーツだからこそ自分勝手ではいけない。自分勝手なままではフェアプレイの精神は身につかない。」と、小さな子どもたちにもわかるように、優しく丁寧に話されていました。

終了後、参加した子どもたちは「初めてフラッグフットボールをやったけど面白かった。」「ルールもわかって上手にできた。」「（楕円形の）ボールを投げるのが楽しかった。」と初めて触れる競技にすっかり夢中になって話をしていました。

※ 京都プロジェクトとは、関西学生アメリカンフットボール連盟に所属する京都を中心とする15の大学により、アメリカンフットボールの普及を目的として2009年に発足した学生団体。京都を拠点として、試合会場などでの模擬店の出店、京都学生祭典への参加、フラッグフットボール支援等を行っている。